

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 干共 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話
03(3202)0546
FAX03(3207)3918
発行人 竹前 昇
編集主筆 竹澤 知代志



下石神井教会 (東京教区北支区・練馬区)

クリスマス メッセージ

ルカによる福音書1章39〜45節

幸いなものたち



広田 叔弘

大変なことを言ってしまった

「マリアは言った。『わたしは主のはためです。お言葉どおり、この身に成りますように。』そこで、天使は去って行った。」「(1章38節)

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

言葉と信仰の決心のみ。人生全体がかかる重大な決断です。

「お言葉どおり、この身に成りますように。」「(1章38節)

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

保証を与えて下さるのは神さま

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

お知らせ
「教団新報」次号四六二七
一八号を合併号とし、一月
二〇日に発行致します。
なお教団事務局、出版局、
年金局は二九日、一月四
日は休業致します。
総幹事 竹前 昇



「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

「マリアは我に返るように思った。『グッ、大変なことを言ってしまった。』」

J O C S

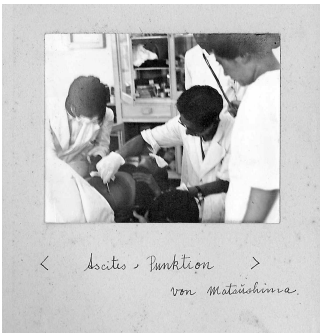
日本キリスト教海外医療協力会

命と向き合う

キリスト教医療ミッションの現場から

JOCOSの歴史は、日中戦争の惨禍の只中、一人の牧師の情熱に打たれたキリスト者医学生が中心となって中国難民救済治療団が赴いた（一九三八年）ことに遡ります。それは、学生YMCA・学生キリスト教運動のうねりと呼応し全国各地の若者たちを巻き込んでいきました。

第二次大戦後、日本キリスト者医科連盟が設立（一九四九年）され、その後創立（一九六〇年）されたJOCOSは二〇一〇年に五〇周年を迎えます。私たちの歩みは、JOCOS二五年史「アジアの呼び声に応えて」（新教出版社・隅谷三喜男著）に克明に記録されています。それは日本における海外での保健医療協力の一草一木



1939年当時の診療活動



故岩村昇氏の診療活動

売春防止法公布（一九五六年五月二四日）から五〇年。これにはキリスト教諸教派・諸団体の祈りと時には血を流す闘いの歴史がありました。現在、種々の婦人保護事業が展開されていますが、キリスト教社会事業の果たす役割はなお大きいようです。

さる十一月七〜九日、「かにた婦人の村」で日本キリスト教社会事業同盟（以下、社事同）の中堅職員研修会が開催されました。福祉の原点を拝見し、学ぶと共に、聖書に聴きつつ研鑽を重ねる良い機会となりました。

社会事業奨励日メッセージ

国の社会福祉施策が大きく変わりましたが、また調整すべきことが多々残っており、先の見えにくい状況の中にあります。新しい制度の中で、抱えている困難の大きな方々が見捨てられないことがないよう

を、各教会がキリスト教社会事業を覚えて祈る日と定めています。福祉に献身している人々と、その事業のために祈り、協力いたしましょう。また、小さなことでも、身近なところでなし得ることがあれば、させていただきたいと願います。

二〇〇六年十二月三日
日本基督教団社会委員会

若者の言葉「サンガイ・ジュネ・コラギ」にも教えられるように、「みんなで生きる」は私たちの行動規範です。「Go to the people」（人々の中へ行きなさい）これは、私たちの基本的な精神です。故岩村昇さんがあのネパールで出会った命が危機にさらされる現実。私たちは、だからこそ最も貧しく弱く小さくされた人々の「今、この瞬間」に想像力を働かせ、「声なき声」を聴き、世界を見つめていきたいと思っています。

JOCOSは、四六年間に延べ六〇人の保健医療従事者を「JOCOSワーカー」として派遣してきました（現在はネパール、バングラデシュ、カンボジア）。そして「自国の苦難にある人々のための命に関わりたい」という志を持つ研修生・奨学生を支援（現在八〇人）し、地域の保健医療水準の向上に協力しています（二一歳は拡大の一途）。

しかしJOCOSは、様々なチャレンジを受けています。JOCOSが直面する課題は大きく分けて三つです。

第一に、ワーカーの確保の困難さ。日本のクリスチャン人口〇・八％。日本の医療事情なども影響し、（各国・地域からの支援要請が多くあるものの）派遣できるキリスト者の保健医療従事者が得られないのが現状です。これは日本のキリスト教の社会的使命へのチャレンジとも言えるかもしれません。

第二に、会員の減少。かつてピーク時には八五〇〇人を超える人たちが会員あるいは社員として私たちの活動を支えて頂いていました。しかし今は五五〇〇人。それに比例して寄付や募金も少なくなってきたいます。JOCOSは、「政府資金・企業献金は受けない」というポリシーを持っています。独立性と自由を保つためです。支援者・協力者の願いと運動を支えにしています。だからこそ、一人ひとりの意識と参画が欠かせないのです。

第三に、使用済み切手の不足。電子及び携帯メール・メール便・宅配便など「切手」の時代への逆風状態が続いています。購入希望者が多くいながら、使用済み切手が集まらず、ファンド



訪問診療に来たお母さんと赤ちゃん

ん。使用済み切手運動は、日常の暮らしから関わる国際ボランティア活動。その灯火を守りたいと思います。

JOCOSが直面する諸課題は、私たち自身の自助努力はもちろんのこと、日本のキリスト教諸団体と一緒に、これらの状況や問題意識を共有し、連携協力を強め、課題克服のための知恵と力が求められているのではないのでしょうか。日本におけるキリスト教共同体として。



村で訪問診療をする JOCOS ワーカー

す。常に「キリスト者である」私たちは何者か「何ができるのか」が問われます。限界もありますし、問題にも直面します。しかし、私たちは関わらねばなりません。主イエスが背中を押しているから、です。「あなたたちが行うのだ」と。

JOCOSは、二〇〇六年度から「今後五年間の方針」（五〇周年を迎える二〇一〇年をゴールとして）を掲げました。第一に、平和の実現に寄与する。第二に、重点対象としての「女性と子ども・少数民族・障がい者・HIV感染者」への取り組みを強化する。第三に、それらの人々と共に生きるワーカーの発掘・養成・派遣です。

これは、新しいことではありません。原点に立ち返り、現代的な使命の実践に専心し、新しい五〇年を創るための契機です。

今、世界は悲鳴を挙げ、SOSを発しています。私たちは「微力」かもしれませんが、

いですが、決して「無力」ではありません。一人が二人になり、二人が三人になる。力は小さくささやかでも、「私」と「私」がつながって世界を変えていくことができますと信じます。「忘れない」「あきらめない」として「私から始める」。そのことを心に刻み、痛みを共有するJOCOSでありたいと思います。善きサマリヤ人のように。

クリスマスは、分かち合いの時。「共に生きる」を確認する時。世界では年間約一〇〇万人の子ども達が五歳の誕生日を迎えられずに亡くなっています。三秒に一人。私たちの無関心は子ども達の未来を奪っています。イエス・キリストを羅針盤とする日本のキリスト教共同体がつながり、「命と向き合う」働きを続けていかねばなりません。それぞれが日本各地に根ざし、かつ世界を見つめ行動する「Think Globally, Act Locally」におこし

致し、主イエスに示された平和と公正な「持続可能な」世界の実現へ歩んでいきたいと祈っています。

JOCOS総主事・
大江 浩報

消息

栗津音松氏（隠退教師）



村で訪問診療をする JOCOS ワーカー

十月十六日、逝去。九一歳。広島県に生まれる。一九四〇年関西学院大学神学部卒業後、日本メソヂスト教会朝鮮清津教会に赴任。その後多度津教会、札幌教会を経て、六六から八〇年まで大分教会を牧会し隠退した。遺族は息子の安和さん。

木下芳次氏（隠退教師）



十月十八日、逝去。八八歳。北海道に生まれる。一九四一年青山学院大学神学部卒業後、日本メソヂスト教会茅ヶ崎教会に赴任し九三年まで牧会した。その後二〇〇三年まで茅ヶ崎南湖教会の牧師を務め隠退した。遺族は妻の潤子さん。

お詫び・訂正
4615号3面、小橋孝一氏の出身地「鎌倉市児島」を「倉敷市児島」にお詫びして訂正いたします。

常議員(信徒)
プロフィール

- (1) 誕生年
(2) 出身地
(3) 信仰歴(受洗年、受洗教会、教師名)
(4) 趣味
(5) モットー
(6) 抱負



◎順不同

齋藤 仁一



東北教区
山都教会

- (1) 1952年
(2) 山都町(会津地方北西部)
(3) 1973年、山都教会、
(4) 音楽を聴くこと、読書
(5) 喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣く
(6) ◎過疎地にある教会と共に歩む
◎多様な考えや活動を認め合う
◎様々な考えや意見を積み上げていく会議制を重んじる

和田 献一



関東教区
氏家教会

- (1) 1947年
(2) 東京都
(3) 1959年、氏家教会、
(4) 和田正牧師
(5) 特になし
(6) 教団が「荒野の40年」の対立の過去を見据え、克服し、「対立から連帯」への新しい歩みを始め、多様性の中で深い対話が生み出されるようにしていきたい。アジアの教会との連帯の中で、被差別少数者が尊重される平和の礎を築きたい。

大杉 弘



中部教区
若草教会

- (1) 1933年
(2) 石川県
(3) 1973年、若草教会、
(4) 井上良彦牧師
(5) 登山、スキー
(6) 教会会議は、主の臨在を信じ、そこで決議されたことを主のみ心と信じて受け入れるのです。み前に謙虚であつて、対立ではなく和解を。

高橋 豊



西東京教区
白鶴教会

- (1) 1932年
(2) 愛媛県西条市
(3) 1955年、岩国教会、
(4) 高倉嶋牧師
(5) ヒアノ演奏・パツハ教会カンタータを毎日聴く。
(6) ◎教師と信徒の絆が深められてゆく教団。◎教師を立て教師の生活を守ることを最重要視。
◎教団年金を守り抜く。

渡部 清数



大阪教区
扇町教会

- (1) 1925年
(2) 大阪府
(3) 1955年、扇町教会、
(4) 書道、水泳、剣道
(5) 信仰と生活との誤りなき規範である、福音を正しく宣べ伝えること。
(6) 教会の使命は伝道である。教会しか出来ないこと、教会だけが出来ること、これらを「現在にとどまることなく、教団の将来」に向かって熱く語る会議を行うこと。これが常議員の責任と重く受け止めている。

津村 正敏



兵庫教区
明石教会

- (1) 1937年
(2) 兵庫県明石市
(3) 1958年、明石教会、
(4) 福井邦蔵牧師
(5) 音楽鑑賞
(6) 信・希望 勇気・自由・解放
(7) 今日の情勢、状況をふまえて、福音宣教の前進に向けて、主イエス・キリストにあつて共に歩んでいきたい。

西澤 宏



西中国教区
広島牛田教会

- (1) 1929年
(2) 山口県柳井市(生まれ育ったのは外地)
(3) 1929年、外地で幼児洗礼
(4) 1951年、信仰告白
(5) 柳井教会、伊藤賢人牧師
(6) 読書、スポーツ観賞
(7) 「初心」
(8) 継続する重要課題に加え、政治情勢の危機が深まり、格段に教団の姿勢が問われよう。引き続き、その問いかけにつとめたい。

東谷 誠



大阪教区
いずみ教会

- (1) 1951年
(2) 大阪府
(3) 1965年、いずみ教会、
(4) 佐治良三牧師
(5) 旅行、みんなで飲むこと。
(6) 「部落差別がなくなり、ますように、全ての差別がなくなりますように」と願い、祈り、声を出し、行なっていく。
(7) 常議員に選ばれたことを真摯に受けとめ、なすべきことを誠実にしていきたく思います。先の総会議場でも差別発言がありました。全ての差別がなくなることを願い、平和を願い歩んでいきたいです。神様に祈り求めつつ。

小林 貞夫



東海教区
日下部教会

- (1) 1929年
(2) 山梨県
(3) 1931年、日下部教会、
(4) 小野善太郎牧師
(5) 音楽(歌うこと)
(6) 人からして欲しいことを人にしてあげなさい(マタイ7・12)
(7) 聖日礼拝を3000回守りたい(2007年末)。
(8) 教会に奉仕したい。教団のためにも。

金刺 一雄



関東教区
上尾合同教会

- (1) 1934年
(2) 静岡
(3) 1956年、大宮教会、
(4) 谷川眞海牧師
(5) 旅、音楽鑑賞
(6) 急がずに、休まずに
(7) 紛争から40年、この間何人が牧師になったのか。
(8) この痛みを忘れない。東京山手教会に死亡広告を出したのは我が会員だったから。

樋田 利明



東京教区
富士見町教会

- (1) 1933年
(2) 愛知県
(3) 1951年、金城教会、
(4) 樋田豊治牧師
(5) サッカー観戦。サッカーには三種の選手がいる。ボールを見ている、人の動きを見ている、すき間を見ているの三つ。
(6) 使徒たちは親たのである。十字架と復活のイエス・キリストを、改革者たちは、この御言葉を信じたのである。教会は、2000年にわたつてこの福音を宣教してきた。教団は、この教会の信仰を支援してくれよう。

望月 克仁



神奈川教区
鎌倉雪ノ下教会

- (1) 1932年
(2) 東京
(3) 1961年、
(4) 鎌倉雪ノ下教会
(5) 松尾造酒蔵牧師
(6) 家族スキー
(7) 一日一日を精一杯生きたい
(8) 「無私」を信条に、課題を担いつつ、召されるまに仕えたいと祈ります。在主

難波 幸矢



東中国教区
光明園家族教会

- (1) 1944年
(2) 愛媛県松山市
(3) 1961年、松山教会、
(4) 山下万里牧師
(5) 歌うこと
(6) 20年前に夫が亡くなりました。死ぬまでの10年間、病気とそれに伴う障害を負うという試練から信仰を問ひ直させられました。グソツタレ神様とまで抗った
(7) 私が「神に許されてある」という体験をし、「試練は平安までがセツト」と確信するようになりました。地位も名誉も勿論財産もないのに草原を歩むような平安の中で生かされています。そのことを「人生って何よ!」と思っている方がいらついたらお伝えしたい。
(8) 上記体験から、イエス様の視点をお聞きしつつ自分を律していきたい。少しでも自分が生きていた時よりは平和で平安に生きる時代を残していきたい。

『教団新報』を読もう！

『教団新報』は、教団の動き、教区の動き、また宣教の現場における動き等、わかりやすく、スピーディーにお伝えしています。教会員、役員の方にも、ご購入くださるようお勧めください。

《年間購読料》
一年分 円共 5,000 円

《購読申し込み》
お近くのキリスト教書店または『教団新報』編集部までお申し込みください。

◎振替 00140-9-145275
『教団新報』編集部

牧師のパートナー

ことは、忘れられせん。第一回の礼拝で宣教をされた李仁夏先生の言葉は、私の信仰を激しくゆさぶり、その後の歩みを大きく変えるものでした。甲府に移ってから不思議な導きで、韓国春川東部教会と姉妹教会となり、さまざまな出会いを通して更に、私の信仰と生活に豊かな恵みが与えられました。今もそれは、形を変えて生きています。

私にとって牧師の妻の醍醐味のひとは、説教を聴いてその日の内に質問出来ること。日曜日、講壇に立った夫はもう夫ではなく、(たまに日頃の言動を思い出し

「私」を探し続けて

寺島 順子
(野方町教会員)

て、格好つけないでよーと叫びたくなる時も、すべての思いわずらいから解放されて、無心に耳を傾けることが出来る礼拝は、本当に幸いなひとときです。

しかし夜ホツとする間もなく、「あれはどういう意味？」と聞かれる夫は、少し気の毒

阿佐ヶ谷、下関丸山、甲府、野方町と、各々の教会での貴重な体験が今の私を形作っていることは紛れもない事実です。特に下関にいた三〇代の頃、在日大韓連教会と山口西分区の諸教会が年一回合同礼拝をするようになった時の



韓国仁川地下鉄駅で

奥羽での農伝の働き

キリスト教農村伝道推進協議会



収穫物を持ち寄っての愛餐会

△二四年の歩み△

この会は、青森県野辺地教会の教職、信徒の方の祈りにより立ちあげられた会で、教区主体の農伝が廃止されたことがきっかけとなり、自主団体としての活動が今も続けられている。農民信徒の自立的信仰確立を目差して、エキメニカルで始まったが、現在は、生活者全てを対象にして門戸を広げ、実質的には教区の農伝部分を担う活動となっている。

〈運営の特徴〉

運営は、参加費、年会費(二〇〇円)、賛助会で賄われ、青森、秋田、岩手三県の教会を持ち廻り、食材と寝袋を持ち寄り、手づくりで行われている。委員は農民信徒が中心になりながら、協力牧師に支えられ、七回目からは報告を出すようになった。

去る一〇月三、四日第二四回目の総会及び研修会が、八甲田伝道所・農村センターの収穫感謝の集いと合同で行われ、延べ三〇名の参加者が与えられた。テーマは『私の農村伝道

論』「農村に生きる人々と共に歩む者として」と題し青森教会の渡辺兵衛牧師に講師になっていただいた。内容は、誠実な証しであった。酪農学園の樋浦誠学長との出会いが、名寄クリスチャンセンターでの働きに繋がった。またお子様の死をきっかけに、農村伝道神学校に学ばれ、奥羽、北海道での牧者としての歩みが続けながら、三愛塾運動や、私達の農伝協の事務局も担っていた。特に野幌教会当時の全道的な、農民と消費者との学習交流の場としての「農業と食べ物を考える会」は、十周年目を迎え、今春には十周年記念誌が発行されている。

開会礼拝、閉会礼拝の持ち方は、開催県の牧師に奉仕していただき、早天礼拝は、信徒による証しが恒例となっている。今回は都合により、日本酒醸造元出身の牧者の証しであったが、その枝が伝道にも役立ってほしいものと思った。ホツとする集会となった。(田中洋一報／農伝協会長)

ひととき

本橋 一さん

長い信仰生活を送ってきた信徒が多い武蔵豊岡教会の教会員の中でも、本橋一さんの信仰生活の長さは群を抜いている。

一さんは、一九五〇年、二十四歳の時に埼玉県川越市のハレルヤ教会で受洗した。この教会は目の不自由な方が集まる教会であった。信仰の道を歩むきっかけは、在学していた川越盲学校の英語教師が語る神様のお話だった。戦争中にもかかわらず、信仰の話がなされる等、当時の盲学校では比較的自由な教育が行われていた。

一九六六年に盲学校の先輩の紹介で恭代さんと結婚、二人で埼玉県入間市にある武蔵豊岡教会の礼拝に出席するようになった。恭代さんは松本ホーリネス

神様の癒しに生きる



1926年生まれ、武蔵豊岡教会員。本橋一さん・恭代さんご夫妻。武蔵豊岡教会の礼拝堂で。

教会で受洗し、信仰を共にできる伴侶を主に望んでいたのに、一さんとの結婚は望んだ通りだった。現在はいつも肩を並べて礼拝に出席されているお二人だが、礼拝以外で二人一緒に並んで座るのは照れてしまう、と恥ずかしげに語る。しかし、恭代さんは二人一緒だったからこそ困難を越えて、ずっと礼拝を欠かさず守ることができた、と神様の導きに心から感謝している。

一さんは、点字の聖書や讃美歌を用いているが、ほんの数年前まで武蔵豊岡教会で礼拝司会を奉仕していた。最初はピンチヒッターのはずが、いつの間にか六名から始められた学び舎が四八〇〇人を擁するキャンパスに成長していることには心熱くされた。教団議長に最初の祝辞を呈することを得させる学校の姿勢に教団と教会を重視してくれている激励を感じ取られた次第である。

深谷松男学院長はかつて常議員として教団形成のために尽力された方であることは忘れられない。多くの人に祈られ期待されている教団であるうちに、しっかりと応えたいのだから。

教団総会でも話題になったことだが、キリスト教主義学校、キリスト教社会事業同盟との連携も大切にして進んでいきたい。

教団総会直後、宮城学院創立20周年記念式典に出席した。僅

(教団総会議長 山北 宣久)

祈りと期待に込めて

第35回教団総会も多くの課題を与えられて終り、新しい歩みにつこうとしている。

年内に常設委員会および常設専門委員会委員を選任し、第一回の常議員会を開催して、新年早々の活動へと向かっていく。

総会についての様々な評価がなされているが、これからの歩みにおいてそれらが定まってくるのだろう。丁寧に一つ一つに対応するのみである。

他教派と人々との対話、協力の模索と努力が続いている。広くは日本宗教連盟における他の宗教団